

令和5年度 やまがた社会貢献基金助成事業 活動報告書

団体名	NPO法人山形県リサイクルポート情報センター		
事業名	酒田港でのリサイクル物流の活性化 (酒田港の新たな飛躍に向けたリサイクル物流の取組み)		
助成事業区分	団体支援助成事業		
団体の 所在市町村	酒田市	事業費	1,264,288 円
		うち助成金額	950,000 円
事業実施期間	令和5年5月25日～令和6年3月31日まで		

事業目的・実施内容

(事業目的)

当NPO法人は、設立当初より国土交通省、山形県および酒田市などの行政とともに、酒田港の経済活動活性化とリサイクルポート機能を十二分に発揚する事を目的とし、毎年、酒田港国際資源循環フォーラムを開催し、各種啓蒙活動に取り組んでまいりました。本事業では、山形県民および多数の企業の皆様方から広く当NPO法人とリサイクルポート酒田港を活用していただくことで、酒田港の更なる利用活性化を生み出し、山形県内全体の経済の発展につなげることを目的にしております。

(実施内容)

当NPO法人は、主に酒田港がリサイクルポート指定を受けた優位性を活かしながら、山形県内の経済発展のため、山形県内から発生するリサイクル品の広域販売・処理促進（ビジネスマッチング）に向けた事業を行っております。私たちは県内外の様々な分野のリサイクル関連事業者と共同して、リサイクル品がうまくビジネスとして展開される事業活動により、長期的に継続可能な循環型社会の構築を目指すことを目的としました。

- ① 山形県内外への酒田港利用PR。（物流拡大）
- ② 山形県内における循環資源のリサイクル物流情報の調査、実情把握。（情報収集）
- ③ 山形県内外におけるリサイクル品の営業支援。（販路拡大）



事業の成果	<p>1. 山形県内外への酒田港利用PR（物流拡大）</p> <p>(1) 「酒田港オンライン・ライブ見学会」のPRを行いました。酒田港見学ツアーガイドサービスは、県内小学校の修学旅行、地元コミュニティセンターの課外活動、企業による酒田港見学（ガイド付き）の問い合わせがありました。</p> <p>a. 酒田港見学ツアーガイドの実績 令和5年度実績実施件数 32団体 1,201名</p> <p>b. 酒田港国際資源循環フォーラムの実施</p> <p>2. 山形県内における新たな循環資源のリサイクル物流情報の調査、実情把握（情報収集）</p> <p>(1) ブルーカーボン実証実験の事業者取りまとめ事業</p> <p>(2) 能登半島地震の災害廃棄物受け入れ窓口</p> <p>(3) リサイクルポート推進協議会主催リサイクルポートセミナーへの事務局参加</p> <p>(4) リサイクルポート四港勉強会への事務局参加</p> <p>3. 山形県内外におけるリサイクル品の営業支援（販路拡大）</p> <p>(1) 再生砕石行政および民間の工事全般について、再生砕石使用に関して営業支援を実施しました。</p> <p>(2) 令和元年5月より、酒田北港にある石炭火力発電所より発生するクリンカ灰の販売委託を締結しました。リサイクル品としてのクリンカ灰の有効利用を図るため、販売営業活動を積極的に推進しました。</p> <p>※石炭灰は天然の化石燃料を燃やしたときに生まれるため、自然の土壌や岩石類に近く、環境負荷が少ないといわれています。地元の石炭火力発電所から発生した石炭灰を主原料に作られたリサイクル資材であり、産業廃棄物の「地産地消」を実現し、当NPO法人がこの製品の販売支援を行うことは、社会的有益性の活動です。安価にエンドユーザーにも提供でき、非常に好評を得ています。</p> <p>4. 酒田北港緑地展望台指定管理</p>
--------------	--

今後の展望	<p>山形県内の経済活性化に酒田港利用PR強化とリサイクル品の営業支援は、企業誘致に伴う雇用の増大および若年層の県内定着化等、今後、必要不可欠であり、長期的に継続可能なビジネスマッチングを確実に展開することで、酒田港の活性化につながるものと考えます。</p>
--------------	---



団体概要

団体名 NPO法人山形県リサイクルポート情報センター

代表者 理事長 鈴木 啓一郎

URL [NPO法人山形県リサイクルポート情報センター \(shonai-recycle.jp\)](http://shonai-recycle.jp)